

助成年度：平成 19 年度

[所属] 東京大学大学院 総合文化研究科

[役職] 助教

[氏名] 清野 聡子

[課題]

## ダム直下の地域における河川流量増加による水循環の再生と住民意識と魚類生理・生態の変化

[内容]

「河川流量の増加と河川環境の再生」の研究にとっては、助成期間に現実社会での大きな進展があった。2007年12月に、「第一回アジア・太平洋サミット」が、研究対象地の筑後川上流の大山川の地元の大分県で開催され、現地で関連するシンポジウムを開催し、この問題の議論を行うことができた。また、それに向けたワークショップを、地元の旧大山町で開催し、大山川や筑後川でのダム管理に地域会議が開催されるなど重要な進展が見られた。これは市民運動と行政の連動の結果であり、「水の公益性」をめぐる議論が頻繁に地元で行われている蓄積の結果といえる。

流量増加により復活した大型アユである「ひびきアユ」の遊泳の計測を行ったが、遊泳速度は計測が困難であり、手法の改善が必要と考えられた。胃内容物の珪藻を分析したところ、水質指標からは主に清流と判断されたが、時に汚濁水域の種も見られたため、さらなる調査が必要である。流量が少ないときに、水たまりとなった場所や生活・農畜産排水の流入箇所からの負荷も考えられる。